看護基礎教育課程における救急看護に関する教育内容の現況
—主要教科書の内容の分析を通して—

磯崎富美子

The Current Situation about Emergency Nursing During Basic Nursing Education
Through Contents Analysis of Major Nursing Textbooks

Fumiko ISOZAKI

要旨：本研究の目的は、我が国における、看護基礎教育課程における救急看護教育の今後の方向性を検討するために、教育内容の分析を通して、救急看護に関する教育の現況を明らかにすることである。看護基礎教育課程で用いる目的で出版された主な４社の教科書を対象に、救急看護に関する記述を抽出し、教科書の「項」レベル以上のタイトルを分析単位（コード）として、その内容の類似性により分類抽象化した。その結果、抽出された総コード数は219であった。これらからさらに以下の６カテゴリに分類抽象化できた。すなわち、「救急医療・看護の概念と特徴とあり方」「救急医療の歴史・現状・展望」「救急的状態にある患者の理解」「救急的状態にある患者と家族への援助の実際」「救急医療と法」「救急医療と看護学教育」である。このうち、「救急的状態にある患者の理解」は全記述量の８割を占め、またこれらの９割以上の記述が身体的側面に関する内容であった。

キーワード：看護基礎教育，　救急看護，　教科書，　教育内容，

Summary : The purpose of this study was through analysis of education contents, to make clear the present situation of education about emergency nursing to examine how to teach the emergency nursing in basic nursing education in Japan. The descriptions about emergency nursing were selected from major four textbooks published with a purpose used with basic nursing education, and extracted a description about emergency nursing. The title more than 'heading' level of textbooks were selected with analysis unit as code, and were classified and abstracted by the similar. In result, The total code number, which extracted were 219. Furthermore, from these 219 codes, six divisions were classified. These six division were, 'general idea and characteristic of emergency medicine and nursing', 'history of the emergency medicine, now and future', 'comprehension of the patient with necessity of emergency medical treatment', 'support to a patient and the family with necessity of emergency medical treatment', 'emergency medical care and the legal system' and 'emergency medical care and nursing education'. 'Comprehension of the patient with necessity of emergency medical treatment' occupied 80% of quantity of all descriptions and a description of these more than 90% was contents about the physical side.

Key words : basic nursing education, emergency nursing, textbooks, education contents,

---

看護学科助手

本研究は、第25回日本救急医学会総会看護部会において、発表したものをまとめたものである。

Ⅰ．はじめに

平成９年度の「保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の一部改正」で教育内容に関する規定の大綱化により、各大学等が独自の教育内容を編成できるようになった。このように看護基礎教育を巡る動きは活発化している。

一方、医療の現場では、高度化・専門化に伴い、看護学の専門性の確立とスペシャリスト育成は急務の課題であるといわれてきている。[1)]

近年、社会のニーズに対応し、救急医療体制の整備に伴い救急看護は、全人的ケアを担う領域として注目を浴びている。[2)] しかし、看護基礎教育課程において、救急看護を体系的に教授しているところはきわめて少ない。[3)]

今回、看護基礎教育課程において、救急看護の教育内容の現状を把握するために、教科書の内容の分析を行った。このことにより、救急看護教育の現在の傾向と今後の課題が明らかになったのでここに報告する。

Ⅱ．研究目的

本研究は、我が国の看護基礎教育課程の中で使用される主な教科書を対象に、救急看護に関する記述を抽出し、その内容を分析することで、教育内容の現況を明らかにし、今後の方向性を考察することを目的とする。

Ⅲ．用語の定義

本研究においては「救急的状態」「救急看護」を以下のように定義する。

１．救急的状態

急性期の中でも医学的にみて医療を施さないと生命を失う、または障害を残すという緊急事態である。

２．救急看護

救急的状態にある患者および家族に対して行われるすべての看護。

Ⅳ．研究方法

１．研究対象

我が国の看護基礎教育課程で使用されている教科書を発行しており、比較的発売部数の多い４社（金原出版株式会社、廣川書店、メヂカルフレンド社、医学書院）を選択し、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄとする。

第１段階として、各社の専門科目の教科書（1994～1997年発行）（Ａ社19冊、Ｂ社25冊、Ｃ社26冊、Ｄ社27冊）から、救急看護に関する記述のあるものを抽出した。

第２段階として抽出した教科書の「節」の下位項目立てである「項」のレベル以上のタイトルで救急看護に関する記述のあるものを抽出した。

２．分析手順

抽出した個々の項目の記述を、分析の最小単位とし、コードとした。その記述内容を、類似性に基づき分類・抽象化した。カテゴリネームの適切さを検討し、抽出されたカテゴリを見直した。

分析の信頼性・妥当性は、本研究技法を熟知した研究者よりスーパービジョンを受け確保した。

Ⅴ．研究結果

研究対象とした教科書から抽出した総コードは、219コードであった。その記述内容を分類・抽象化した結果、74下位サブカテゴリを形成した。これらは33の中位サブカテゴリを形成し、さらにこれらより９の上位サブカテゴリを形成した。これらは、【Ⅰ．救急医療・看護の概念と特徴とあり方】【Ⅱ．救急医療の歴史・現状・展望】【Ⅲ．救急的状態にある患者の理解】【Ⅳ．救急的状態にある患者と家族への看護の実際】【Ⅴ．救急医療と法】【Ⅵ．救急医療と看護学教育】という６つのカテゴリを構成した。以下に各々のカテゴリについて説明する。（表１参照）

【Ⅰ．救急医療・看護の概念と特徴とあり方】のカテゴリには、救急法の定義や救急医療・看護が他の医療現場と違い、生命維持に直結していることが明示されていた。また呼吸不全、ショック、急性腹症などの救急的状態の対象となる主な症状の定義が記述されていた。救急看護に必要な知識、対象となる疾患の多様性、臨機応変の対応が必要であるなどの救急看護の特徴や救急看護のあり方が記述されていた。

【Ⅱ．救急医療の歴史・現状・展望】のカテゴリには、救急医療が急速に発展した分野であるという変遷および、１次・２次・３次救急医療施設という現在の医療システムについてとそこで働く看護婦の業務について記述されていた。

また、プレホスピタルケアの充実が必要であるという今後の展望が記述されていた。さらに、特殊な状態の患者を看護していくために、広範囲の思考能力を養うことが重要であり、認定救急看護

婦の導入が必要であることが記述されていた。

【Ⅲ．救急的状態にある患者の理解】のカテゴリには、身体的側面の理解をする内容として、救急的状態にある患者の定義・発生機序・病態生理・診断・治療方針、内容・行われるケア全般などについて記述されていた。また、救急的状態にある患者の心理的側面の理解として、現状の理解や適応がむずかしい、不安感や死の恐怖など動揺が強いなどという患者と家族の心理面の特徴が記述されていた。さらに、医療関係者と信頼関係が成立していない、突然社会的地位を失うこともある、経済的問題をもつことが多いなどの患者と家族の社会面の特徴が記述されていた。

【Ⅳ．救急的状態にある患者と家族への看護の実際】のカテゴリには、救急的状態にある患者の看護の実際として、主な疾患および症状を呈している患者の観察の要点、方法、看護援助の実際、看護記録の意義などが記述されていた。さらに救急的状態にある患者の家族に対しては、話の傾聴、暖かい思いやりと気配りのある対応、患者との接触の調整が重要であるという看護の実際が記述されていた。

表１．カテゴリ構成要素

中　位 サブカテゴリ	上　位 サブカテゴリ	カテゴリ
1）救急法の定義と意義と適用 2）救急的状態の定義 3）救急看護に必要な基礎知識	1 救急医療・看護の定義・意義・適用と特徴	Ⅰ 救急医療・看護の概念と特徴とあり方
4）救急看護の特徴 5）外科領域における救急看護のあり方	2 救急看護のあり方	
6）救急医療の歴史 7）救急医療の展望 8）救急看護の展望 9）救急医療体制と看護業務	3 救急医療の歴史・現状・展望	Ⅱ 救急医療の歴史・現状・展望
10）救急的状態にある患者の発症様式と経過の特性 11）救急的状態にある患者の定義・機序・病態生理・診断・治療・ケア全般 ～ 17）	4 救急的状態にある患者の身体的側面の理解	Ⅲ 救急的状態にある患者の理解
18）救急的状態にある患者と家族の心理・社会的側面の特徴 19）精神的問題を持つ患者の精神状態による分類とその対応	5 救急的状態にある患者の心理・社会的側面の理解	
20） ～ 30）救急的状態にある患者の観察の要点と看護の展開	6 救急的状態にある患者の看護の実際	Ⅳ 救急的状態にある患者の家族への援助の実際
31）救急的状態にある患者の家族への対応	7 救急的状態にある患者の家族への看護の実際	
32）救急医療と法的問題	8 救急医療と法的問題	Ⅴ 救急医療と法
33）救急看護の教育	9 救急医療と看護学教育	Ⅵ 救急医療と看護

【Ⅴ．救急医療と法】のカテゴリには、診療の義務などの医師に関する法的問題、看護婦の業務独占、守秘義務などの看護婦に関する法的問題について記述されていた。

【Ⅵ．救急医療と看護学教育】のカテゴリには、他看護領域と同様に卒後教育が重要であること、1981年日本救急医学会看護部会が創設され、救急部門で働く看護婦が中心となり主体的に看護教育が行われていることが記述されていた。さらに救急領域における看護研究や学会活動の必要性について記述されていた。

次に各カテゴリのコード数・ページ数の占める割合について述べる。(図１参照)

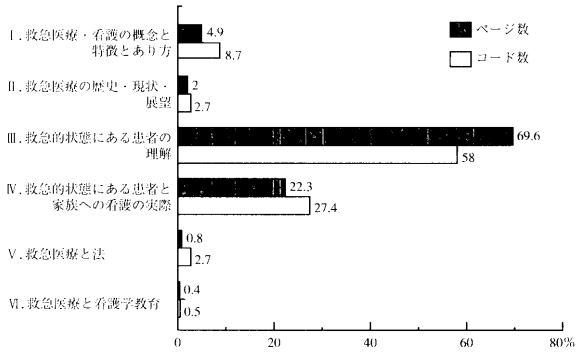

図１．コード数・ページ数の割合

各カテゴリのコード数の割合は、【Ⅲ．救急的状態にある患者の理解】が127コード、【Ⅳ．救急的状態にある患者と家族の理解】60コードで、この２つのカテゴリで全コード数の80％以上であった。

研究対象とした教科書から抽出した219コードの総ページ数は、384.03ページであった。各カテゴリのページ数の割合は、【Ⅲ．救急的状態にある患者の理解】が267.2ページ、【Ⅳ．救急的状態にある患者と家族の理解】が85.65ページで、この２つのカテゴリで全ページ数の90％以上であった。最も少ないのは、【Ⅵ．救急医療と看護学教育】であり、コード数・ページ数とも１％未満であった。

Ⅵ．考察

本研究の結果、救急看護に関する記述のある主な教科書の内容は、６つのカテゴリに分類された。

【Ⅰ．救急医療・看護の概念と特徴とあり方】【Ⅱ．救急医療の歴史・現状・展望】には、救急

医療および看護の基礎的内容が記述されており、救急看護を初めて学ぶものにとって、必要な要素である。【Ⅲ．救急的状態にある患者の理解】【Ⅳ．救急的状態にある患者と家族への看護の実際】は、ケア提供に際し、対象理解が不可欠であること、同時に救急状況におけるケアの実践的側面の重要性を示している。【Ⅴ．救急医療と法】では、医療には、数多くの法律が関与していることが示されている。【Ⅵ．救急医療と看護学教育】では看護学教育の重要性を、教育システムや研究活動の面からも記述されている。

以上のことより、この６つのカテゴリは、看護基礎教育課程において救急看護を教授するために必要な内容が、充足されていると考える。このことは、救急看護に必要な教育内容は、他領域とは異なるものではなく、看護に必要な要素は同じであることを示唆している。

今回明らかになったカテゴリ【Ⅲ．救急的状態にある患者の理解】のうち、救急的状態にある患者の身体的側面の理解は127コード中124コードを占めている。これは救命・救急にその重きをおいていることを示している。しかし、そのほとんどの記述内容は、疾患の理解についてである。これは、患者を疾患を中心に理解し、それに対する看護はどうなされるのかという対症看護的な内容が多いことが明らかである。これらの現況は、「Cure（治療）とLiving（生活）が救急看護の独自性である」[4]といわれながら、救急看護の教育内容は、治療的側面が多く、患者の生活機能面へのアプローチのしかたなどの教育内容が不十分であると考えられる。

また、救急的状態での家族は、患者と同様に「混乱・動揺」「不安・恐怖」などの言葉で表されるように、危機的状況に陥っていることが多い。その状況において、看護婦は、どのようにサポートしていくのかを学ぶことが重要であると考える。しかし、今回明らかになったカテゴリ【Ⅲ．救急的状態にある患者の理解】のうち、患者の家族の理解は127コード中３コード、【Ⅳ．救急的状態にある患者と家族への看護の実際】のうち患者および家族への援助は60コード中１コードであった。援助の方法を学ぶには、分量的には不足ではないかと考える。

看護基礎教育課程においては、主な教科書の内容の分析から明らかになった、充足されている教育内容をもとに、心理的側面、社会的側面および患者の家族への援助の教育内容を充実させることが重要であると考える。それが患者を身体的・心理的・社会的３側面からとらえ、救急看護が、全人的ケアであることの理解につながるような教育の工夫も必要である。

Ⅶ．結論

1．救急看護に関する主な教科書の記述内容の分析の結果、６つのカテゴリに分類された。

2．救急的状態にある患者の理解の内容は、身体的側面が圧倒的に多かった。

3．看護基礎教育課程における、救急看護教育は、患者を身体的・心理的・社会的側面からとらえることができるような教育内容の充実が必要である。

引用文献

1）明石惠子、大西和子、野口孝：看護基礎教育と認定救急看護師，Emergency nursing，９（11），p.26，1996.

2）加来信雄他：系統看護学講座　別巻４　救急看護学，医学書院，p.10，1994.

3）柘植尚子、明石惠子：看護基礎教育プロセスにおける救急看護教育のあり方（１）―救急看護に関する歴史的考察―，日本看護学教育学会誌，５（２），pp.66-67，1995.

4）三重大学医療短期大学部：モデルプランによる救急看護学教授の効果に関する教育臨床的研究，平成７年度文部省特定研究報告，p.66，1996.

参考文献

1）渡辺淑子、中村恵子：救急看護婦の教育方法と実際，Emergency nursing 夏季増刊，メディカ出版，pp.46-60，1996.

2）大岡良枝：認定看護師カリキュラムに込めた期待，Emergency nursing，９（11），pp.15-17，1996.

3）三重大学医療短期大学部：救急看護に関する実態調査研究，平成６年度文部省特定研究報告書，1995.

4）三重大学医療短期大学部：救急看護学の教授方略および評価に関する研究，平成８年度文部省特定研究報告書，1997.

5）明石惠子、柘植尚子：看護基礎教育プロセスにおける救急看護教育のあり方（２）―今日的問題と救急看護教育の課題―，日本看護学教育学会誌，

5（2），pp.68-69，1995.
6）西沢義子他：救急蘇生活動における認知スタイル別教育方法に関する検討—実習初期の学生に対する心肺脳蘇生法の指導方法に関する検討—，日本看護研究学会雑誌，19（1），pp.53-60，1996.
7）岩本テルヨ：学習内容の定着を図る看護技術教育の研究—CAI教材「救急蘇生法」の学習効果—，日本看護研究学会雑誌，19（2），pp.17-24，1996.
8）野本百合子、鈴木純恵、小川妙子：1989～1993年におけるわが国の基礎看護学教育に関する研究の動向と特徴—研究方法と研究内容に焦点を当てて—，看護教育学研究，4（1），pp.1-17，1995.
9）望月美知代：看護の対象理解における教育内容の変遷—看護の対象に関する教科書の記述内容の分析から—，看護教育学研究，4（2），1995.